

2019年JAF中部・近畿ラリー選手権 第7戦 2019年JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ 第4戦
2019年JMRC中部ラリーチャレンジシリーズ 第4戦 ANDテクニカルツアー-2019 [JAF公認No.2019-2306]

開催日：2019年11月9～10日 開催場所：富山 格式：準国内 主催：AND [クラブ登録No.加盟16002]

フォト／谷内寿隆 レポート／勝森勇夫

「雨の降る中、豊田信寿／中川亜希子組は、同時に、1倍速で走り、ラリーではドクターストップを押し、絶望的な悲劇の切っ掛けとなった。」



豊田信寿ランサー、全SS奪取でチャンプ確定!

JAF中部・近畿ラリー選手権の2019年のファイナルラウンド「ANDラリー(ANDテクニカルツアー-2019)」が、富山県西部のリゾート地、「IOX(イオックス)アローザ」周辺をステージとして開催された。

一帯は豊かな自然が広がり、SSに最適な林道も充実。「ラリーのコース作りには事欠かない」と評判のエリアだ。今回、主催者がスタート地点に選んだのは全日本ジムカーナのステージとしても使われる「IOXアローザスキー場」の駐車場。ここを起点に、スキー場を挟んで南北に伸びる2つの林道をSSとして使う、全行程74.38kmのシンプルなコースだ。

1. 併催のJMRC中部チャレンジシリーズでは山田啓介／鈴木光祐組が快勝した。2. 吉澤佳汰／坂井智幸組はチャレンジクラスで2位獲得。3. チャレンジクラスで3位獲得の野澤雅史／野澤孝之組。

セクション1のSS1は、スキー場から南に伸びる林道を南下する5.33km。SS2は、山裾を一路北上し、再び進路を南にとってスキー場へと折って返す3.29km。SS3は、SS1のコースを南から北へ逆走する5.08km。インターバルを挟んでのセクション2も、セクション1を繰り返す形で、SSは合計6本、トータル27.40km。リエゾン距離が短く、アップテンポなラリーとあって、「乗れる」と思えば一気に行ける反面、一旦、ミスってしまうと気持ちの切り替えが難しい一戦になった。

ラリー本番当日、IOXアローザ周辺はレッキが行われた前日同様、朝から爽やかな秋空が広がった。しかしながらSSに使われる林道は、前夜に降った雨でウェットな状態。見た目以上にス

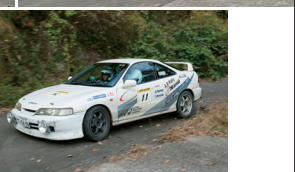
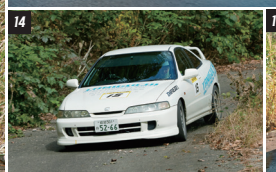
リッピーな路面が選手たちを苦しませ、DE-1クラスでシリーズ5位につける蒲生裕一／藤井俊樹組は、SS1のスタート直後にコースオフ。早々に戦列を去ってしまった。

路面コンディションの相性はもちろん、装着タイヤによっても、タイム差が大きいついたセクション1。DE-1クラスは、ポイント争い首位の豊田信寿／中川亜希子組が、関東からスポット参戦してきた鎌田恵治／新井祐一組を、SS1から15秒引き離すスタートダッシュ。前半戦をトップで折り返した。ちなみに豊田選手はこの日、いつものコ・ドラの都合がつかず、急ぎよ、中川選手に代打を依頼。初コンビでのエントリーとなる。

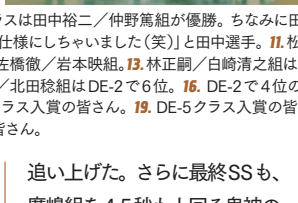
最終戦でも最も多い参加台数(13台)を集めた人気のDE-2クラスは、すでにシリーズタイトルを決めている鮫島大湖／船木佐知子組が、セクション1を終えて11番手と予想外に低迷。シリーズ2位を争う、廣嶋浩／廣嶋真組と茶谷圭祐／舟木淳史組の戦いが、このクラスの最大の見所になった。

セクション1を終わった時点でのトップは廣嶋浩組、2位は佐橋徹／岩本映組が8秒遅れ。その3秒遅れて茶谷圭祐組がつける。トップを走る廣嶋選手と、それを追う茶谷選手のタイム差は約11秒。ドライ照準でセッティングした硬めのサスが路面に合わず苦勞するも、あえてリア





4. DE-5クラスは、長野から参戦の村山俊晴／山川雅英組が2位を9秒以上離してゴール。村山選手も勝因は「履いていたラリータイヤのコントロール性を活かされたこと」と分析。5. 茶谷圭祐組の追従を間一髪で交わし、DE-2クラスで優勝した廣嶋浩／廣嶋真組。スリッピーな路面をものともせず、アクセルの踏みっぷりは今回もピカイチ！6. 僅かに及ばず2位に甘んじたDE-2茶谷圭祐／船木淳史組。7. 舟槻千江美／福澤賢組がDE-6で2位入賞。8. 多田稜平／小林一貴組はDE-5で2位入賞。9. DE-1の2位は関東から遠征してきた鎌田恵治／新井祐一組が入賞。10. DE-6クラスは田中裕二／仲野篤組が優勝。ちなみに田中選手の駆るGRヴィッツは奥様の愛車。「妻には内緒でラリーに仕様にしちゃいました(笑)」と田中選手。11. 松井弘成／日村大志組はDE-5で3位入賞。12. DE-2で3位入賞の佐橋徹／岩本映組。13. 林正嗣／白崎清之組はDE-1で3位。14. 中野光／大橋正典組はDE-2で5位。15. 田中潤／北田稔組はDE-2で6位。16. DE-2で4位の三谷信也／森博則組。17. DE-1クラス入賞の皆さん。18. DE-2クラス入賞の皆さん。19. DE-5クラス入賞の皆さん。20. DE-6クラス入賞の皆さん。21. チャレンジクラス入賞の皆さん。



を振り回す乗り方で好タイムを連発した廣嶋選手。10秒を超える大差に、余裕の逃げ切りか、と思われたが、この日の茶谷選手は最後の最後まで諦めない。

セクション2に入り気温も上昇し、路面は徐々に乾き始めた。しかし、意外にも「1セクよりも難しさが増した」というのが多くの選手たちの意見だ。乾いたのは日向だけで、日陰は相変わらずウェットのまま。いつ現れるかわからない濡れた路面に、アクセルを踏み切れならしい。

そんな状況の中、コンスタントにタイムを伸ばしたのが、DE-2クラスの茶谷組だ。SS4で4.2秒、SS5で2.2秒、首位を走る廣嶋組を上回るタイムを叩き出し、この時点で4.8秒差まで

追いつけた。さらに最終SSも、廣嶋組を4.5秒も上回る鬼神の走りを見せる。

しかし、トータルではコンマ3秒届かず、1セクでの貯金を生かした廣嶋組が逃げ切り、勝利。シリーズ2位を決定した。試合後、「前々回は、僕たちがコンマ差遅れでシリーズチャンプを逃し、悔しい思いをした。だから今回は、茶谷君らに悔しい思いをしてもらいました(笑)」と廣嶋選手。笑顔の中に、シリーズ2位を死守した安堵の様子が伺えた。

一方、茶谷選手は、勝敗よりも今回初めて履いた17インチタイヤに「使いこなせる手応え」を掴んだことが何よりの収穫のよう。息が合い

始めたコ・ドラの船木選手とともに、負けて俯くことはなく、すでに気持ちは2020年のラリーシーズンを見据えていた。

そして、シリーズ王座の行方がかかったDE-1クラスは、2セクに入っても順調に全てのSSでトップタイムをマークした豊田信寿組が勝利。今シーズンは、出場したラリーは全て優勝。それでもシーズン途中で体を壊すなど、「決して楽なシーズンではなかった」と言う豊田選手。勝って奢らずのベテランだ。最終戦の勝因も「中川選手のスキルの高さ」と、助っ人コ・ドラの働きを一番に挙げた。